

○添付資料 5

格差の時代といわれていますが 日本の伝統工芸も格差の時代だと思います。

安いものは海外でパチモノが、こだわりのあるものは名前が売れてきちゃ作れない。

まとめてあぼん？

伝統にしがみ付いてるからじゃないか？皆民芸に徹する様に。

今民芸やっても消費者の目が肥えてる というか美術品的価値観になってるから売れない。

作る方も一回楽に売る事おぼえちゃうと 用の美みたいな禁欲的な事できない。

職にしてる人間が飯の為に仕事するなら一から十まで手仕事で安く仕上がるわけが無い。

機械入れて、簡略化して、デザイン性考えて、出来上がれば「伝統」は薄く伸ばされて良く見えなくなってる。広告代理店に頼まなきゃいけないくらいに。

でもそれを非難するところではないと思う。新しいタイプの伝統として、その地場産業の流れとかを汲んでいけば十分では、一見工業製品みたいでも伝統工芸は伝統があって成り立つし。変らぬ見た目「だけ」に拘っていたら「伝統」自体が危ういのは目に見えている。技術を継承しつつ新しく大量生産する方向や新たな形の商品化（開拓）を伝統側が迫られているって、毎年テレビで特集組んでる。

民芸って買う気が失せます。まだ伝統の方がいい

民芸には民芸の良さが在る、好みはあるけど。ただ、一言で民芸と言ってもこれは大好きとかこれはまず好みとか 離れているとか当たり前にあるからなあ...

正直伝統工芸との境界線があやふや、産地にそこそこ歴史があってもマイナーだったら民芸にカテゴライズされたりしてそう。

理論上、民衆による民衆のための生活雑器の美を追求するのが民芸。日本版バウハウス運動、なので、伝統工芸の中に民芸は含まれるはず但し、いわゆる民芸作家の作るただのゆがんだ壺や皿にしかみえない素焼き風陶器がバカ高い値段で売っているところをみると、民衆という文字はなくなっただけ

つまり民芸とはヘタウマを目指した伝統工芸品ともいえる。民芸運動の結果として、全国の土産物屋に定番の民芸品として、名前だけは残した。やっぱブランド化してなきゃ民芸って認識は当然も遠からじだったのか...

「民芸」と囲いを付けた時点で「理論上の民芸」は消えた？

でも「民芸」という概念以前に作られた所謂「民衆による民衆の為の生活雑器」は今で言う「百金の器」とイコールではない気もする。一緒かな？

昔の民芸は職人＝ユーザーで 何年も使いながらすこしずつ使いやすく、いいカタチにしていたから結果的に美しい道具になったのでは。中途半端に近代的な「商品開発」してできた「民

○添付資料 5

芸品」はダメな感じ。民芸はバウハウスなんかとのデザイン運動とは直接関係ない。デザインとは違うベクトル。

民芸という言葉を作ったのは柳宋悦たち。でも「民藝」は作ったでなく発見した。日本各地を回って朝鮮半島まで調査に行ったらそこ各地には無名の職人達が民衆の日常生活のために作り使われていた正に生活雑器がたくさんあった。それらはどれも初めから、疑いようのない「美」が宿っていた。それには鑑賞品として意図的に作り出そうとした美とは全く逆の「美」があるよって言ったんだ。だけどそれはその時からすでに、近代化の中で滅び行く「美」だった。後はおおむね前の人と言うみたいな経過だな。もはや民芸と言えば、観光客のためのお土産という認識にまで落ちた。柳の実子柳宋理は、若いときには理解できずデザイナーになったけども後になって父親のように、普通の工業製品に美を発見する。デザイナーがタッチしてない製品にこそ、いやらしさのない美があるとしてアノニマス・デザインと呼んで褒め称えた。

柳は有能なデザイナーだからこそ、この真逆のベクトルの美を前にして、デザインと言う行為の限界を感じていたのかもしれない。柳ですらこの難問を解くことができないのに、適当にスケッチして、パワーポイントで企画書かいたような「商品開発」ではムリだな
今地方の職人ですらまじめにもものつくってない。自作品と中国製の紛い物並べて売ってたりね。そうじゃないやつは工芸作家とか称してわけわかんないものづくりだすし。

それが「用の美」って言われる美しさって事か。確かにデザイン的な事とは正反対。

じゃあ今の日本で用の美を体現できる道具類は殆ど無いのか？「生活雑器」では厳しいし、職人自体が減っている。で「道具」を大事に出来る人たちと「道具に拘れる」職業は伝統工芸？鑑賞目的の芸術作品担っちゃった時点で伝統工芸は終わった。今の若い人たちにアレに魅力を感じる感性は無いに等しい。技術を引き継ぐ事は大切、感性も昔のままでは誰も振り向かない。職人の手作りじゃない...工場生産した時点で物の価値は下がると思うか？

どうも伝統工芸人気無いなあって思う。「見せる品」の何が悪い？見るのは好き、タダだから。買う金はさすがに持ってない。分からん世界も多い

>バカ高いからね。誰も買わんでこれはちょっとと思う事があるなあ。いや、実際時間かけて仕事したら「まだ足らん」ってのが作り手の本音だとしても、買う事考えたら「誰が買うんだろ？」と正直不思議な気にはなる。まるで別世界？の話みたいな...で、上の疑問が出てくる一本数万で売らなければ作り手が生活できない美しい鍬は果たして実用品だろうか？

一体誰が使うのだろうか？手仕事で一本一本生産するよりも、機械で製造する方がコストが何分の一にもなって、機械の精度が熟練した手仕事に近いくらいに上がって、実用には十分に耐えられるようになって今では手仕事自体が贅沢品になって、手工芸は伝統の二文字を冠して歌舞伎と同じ道を歩くことになった。活気も躍動もないけど、洗練された美
歌舞伎と同じ道、かぁ...全く同じ道を行くのかねえ。

○添付資料 5

伝統自体に価値を感じる人っているかな？私は結構感じるが。

この際感じても飯は食えないとかは分かてる上で聞きたいな。

日本以外の国に売り込むほうが成功しそう...その為の資金やノウハウ、取っ掛かり全てお手上げなんだろうね。某筆が化粧道具として注目されてたよな、あれなんかどうやって知り合ったんだろお互い...

>上の疑問はスルー？

>「民芸」という概念以前に作られた所謂「民衆による民衆の為の生活雑器」は今で言う「百金の器」とイコールではない気もするしなあ...

民芸の概念の無いところから民芸は生まれない。作られた物はただの鋏でありただの皿である。

ただの皿に後から芸術家や評論家が如何なる理屈をつけようが、それはただの皿

芸術もしかりだからといって作られた物描かれた絵の価値には関係ないと個人的には思う

>工場生産した時点で物の価値は下がると思うか？

価値=価格なら yes 真価なら その時代によって変わる。安価な大量生産品が後の時代になってバカ高い値段で取引されたりもする

実用という一点を外せば、伝統工芸も歌舞伎もじつに綺麗で見事。技術的には--今のところ--どんな機械生産品も敵わない。その1/10mm、1/100mmを追求した精密さは世界でもトップレベルだと思う。ただ実用品という枠組みの中で考えた場合、それは良い物なのか？歌舞伎の舞台裏はテレビのプロダクションに、工芸品の工房は町工場にそれぞれ命は引き渡して、どっちもそれなりに、それでも間違いなく引き継がれていて、日本の文化と製品が今の世界的地位を築く原動力になった。現代の作家物工芸品にも目を見張るようなものがある

それでも、実に綺麗な化石標本を見たときのような憧れと寂しさがいつも付きまとう

一体 だれが使うのだろう？

現代において物の価値は市場が決める。市場において100円でしか売れないものを、1000円でしか作れないのなら産業として成り立たない

いつかは作ることで生活しようとして、実際作って売り込みにあるいて、ようやく気づいた。

本人がいくら良い物だと信じて、仮に実際そうだったとしても、ダメ。

機械でつくってもいいカタチのものはいい。安いだからなお良い。

手作りと機械の間に、なにか「越えられない壁」があるという認識がおかしい。

ある完成された技術の伝承は、重要なことだと思う。誰かがその技術を今日も確かに受け継いでいると思える、安心感でもあるだから誰かに伝承して欲しいけれども、実際問題としてその技術によって作られたモノは、ただ見て関心するだけ。自分にそれを習得する機会があったとしても、おそらく仕事にはしない。それでも誰かに継いでくれとは とても言えない

○添付資料 5

普通に時代に合ったデザインにしてしまったほうがいい。伝統なのは技術であって製品のカタチではないと思うよ。伝統工芸って殻に閉じこもっちゃうから問題なわけで、伝統なのは意匠でも技術でもなく、研ぎすまされた感性、思考であるべき。

手仕事にこだわらず、テクノロジーを敬遠せず、現代においても望ましい物を作り出して。考えた事がある人間だってその事を簡単に片付ける（解決又は忘れる）事は出来ないのが普通。もったいないと思うだけでは消えてしまう、やってみたいと思うだけでは手には出来ない、それは言い訳でも何でも無い。特に反応してしまったのが「文化全体が」一般化からかけ離れていったものたち。

やりたい奴はやるだろう。絵描きが絵を描くのは、金持ちになりたいからじゃない。それが好きだからだ。仕方ないときに諦めるんだしね。（私は伝統の流れを汲んだ産業の仕事をしているので...駆け出しですからけつに卵の殻が付いてますが）

実は私の言う「伝統」って「この土地でこういう産業が脈々と続いていました」って事を指してたんだ、説明不足スマン。何かを続けるって本当の意味では「ずっと同じ」で続くワケがない、だからこそ何かしら変化があつて当然。むしろそうやって色々取り入れて続いていくから「伝統」と呼ばれるほどの流れが出来ると信じたいのです...

先週は伝統工芸を綺麗な化石と言った。それでも伝統に拠らなければ何も作れないと確信を持って言う。何も無いところからは本物は作れない。あるいは少なくとも、本質的な厳しさを持った、何かは作れない。伝統とは民族の持つ基本的な価値の判断基準でもあると思う。

全ての製作者は、その価値観によって製作し、全てのモノは消費者からその価値観によって批評される。伝統とは、ただ製作者のためにあるのではなく、消費者のものでもある。

描いた絵が誰にも批評されない画家が腐るように、あるいはそれ以上に、工芸品は消費者から批評されなければならない、その評価基準の甘い所からは、甘いモノしか生産されない。だから売れなければならない。

上段に構えた伝統からは、浴衣地のTシャツや輪島塗のティーカップしか出てこない。

消費者がそれを支持するのなら、それはそれで良いけど

伝統っていうのは、もっとさりげなくて、それでも想像以上に密接なんだろうと思う

伊万里の人が別の焼き物を作ろうと突き詰めて突き詰めて、それでも気に入らなくて、散々悩んだあげくに コダ！ っていうものを他の人が見たら立派な伊万里だったみたいな

よく言うじゃないか 天然モノには敵わない って

伝統工芸の職人がデザインの勉強しないとだめだ。デザインって言っても表層じゃないトータルなデザインを。伝統工芸に興味あつても、仕事として選択したとき実際食っていけるかどうかの問題を考えるとどうしても今の若い人たちは手をつけにくいんだと思う。

○添付資料 5

よく伝統工芸の継承者不足とかが話題になるけど、どこかにも書いてあったように売り手の思う価格と買い手の思う価格に激烈な差がある。騒ぐ割に公的な補助とか酷いからそこら辺を政策とかでなんとかならんのかね？例えば医療保険みたいな感じで。

若い職人が食ってけないのは本人だけがわるいわけじゃないと思う。

客も職人も頭の固いおっさんばかりだしね。良く言えばこだわりがあって頑固ってことだけど。製品の質とか製法に頑固なのはいいけど、無駄に頑固なことも多いから。

若い職人ならではの発想でなんか作っても、「身内」の横やりで世に出せないってのも普通だし。そういう環境で調教されちゃうと、若い人の良さもなくなってしまう。まあそうなる前に辞めちゃうと思うけど。公的なお金つぎこむにしても、お客さんの獲得とか知名度アップとか産地以外で売る場所とかそういう方向に使わないと、無駄になると思う。

ベテラン職人どうして仲悪い。特に独立してやってきていた人どうしが同じ職場で働きだすと大変。ベテランの人も新しい機械が入ったらいろいろ挑戦したいみたい。

ところで職人の給料ってどれくらい貰ってる？おいらは西陣織りの織り子(自動織機)で年収350万。見習い期間は月18万位だった。

漆器関係やったけど、入ってみたら正社員のはずがバイト。正確には試用期間期限不明。もちろん給料は地域の最低賃金。我慢してやっていたけど、自分の試したいことはできないし良くもない製品を毎日作らされて「結局俺ってロボットと同じじゃん？」としか考えられなくなって一年もたずに辞めた。でもなんか職場にも必要なさそうだったしいんじゃないかな。

辞めて正解。そういう意識の低い職場から学ぶ事は少ない。俺がいたところは若いひとでも何人かいたけど製法とか制作技術を追求するのが面白くて続けてるって感じだった。それを利用して、新しいもの、自分のいいと思うもの今の時代に合ったものを作りたいと思って入ったのが間違いだった。そういうのもあって続けても仕方ないと思った。古いものを作り続けるのが悪いとは思わない。それでこれからも製品が売れるかは別として。入る会社のそういう違いはとて大きいから、これからやろうと思ってる人は気をつけてほしい。

教えてもらう事なんて、一つもない。学ぶ事ならいくらでもあるけど。

くだらない言葉遊びに聞こえるかもしれないけど、これが分からなければ素質は無いと思う。隙間はまだわずかに有るだろうけど、それを自分で作れる人以外は食えない。マーケティングと商売が自分で出来るやつは職人しないしなw

これだけ外国かぶれしてたらかえって日本の伝統の方が新鮮

どのようなものを想定した話かはわからんが作品のサイズを徹底的に現代の産業規格と合致させるだけでそれなりの需要は見込めるのでは？

海外からの研修者を募り技術移転、開発力も海外に移すべきだろうこのままでは技能が失われてしまう

○添付資料 5

日本のよいデザインが残ってるのはこの分野だけ。

大事にしたいな。

引き裂かれた歴史の狭間を浮遊してないでちゃんと現代を直視してニーズにあったものをつくれれば良い訳だろ。作家になろうとするからおかしなことになる。

民藝コンプレックスなんて捨てちまえ！陶珍かまどみたいに試験所や大学と連携して商品開発しろよ！

伝統工芸を学んでいる者だけど先を考えたら難しと感じる今日この頃今デザインから販売までのプロセス学んでいるんだが絶望的な答えしか出てこない

商品開発のプロセスも陳腐なんだかソレ以上にダメなのが価格設定の段階

ある程度の機械化を取り入れた企業や職人の速さ、品質性にはどうしても敵わない

同じモノでも二倍時間がかかれば価格も二倍。無名の素人が作った高いモノより安く良いモノの方に客は向く。その答に先生は行き着いてないはずなのに言わない、他のヤツ等は気付いてもいないっぽい。他にも問題点だらけだと思うんだがとりあえずココまで

竹といえば集成材を使ってエンゾ・マリが京都で何か作ってたね。技術革新がないところに新しいデザインも生まれえない。伝統工芸も変らなきや

『伝統工芸』である以上新し形は難しくないかと少し思う。自分に発想力が無いだけなんだろうけど。伝統工芸とは？みたいな授業の時に材料や作った場所、編み方などの技法、染め方仕上げ方法までを含めて伝統工芸と名乗れたはず(今手元に資料が無いのでうる覚えで大変申し訳ないんだが) その枠から外れればクラフトや作家作品。

もちろん新しい発想もするのだが叩いて打つのがプライト 高い職人

文楽なんてよっぽどの演目でもない限りガラーンとしてる。アニメが文楽のエッセンスを吸収して現代に伝えているようなところもあるのかもしれないけど、歌舞伎の方は料金が高くても一杯入ってる。現代といかに切り結ぶことができるか。彼らは試行錯誤しながらも努力し続けていると思う。形にこだわるのが『伝統』だとは思わないよ

日本の伝統工芸の人の私服を見ると、とてもセンスがあるとは思えない。日本の美術教育が遅れ過ぎてる。自国の伝統文化は愚か、諸外国の名作ですら紹介する時間が無い。

美術の時間削り過ぎ。なんか政府が今更文化先進国にしようとして躍起だが、今更遅い。美術の時間内で子供達に優れた工芸品を見せて綺麗だな、美しいなって感じさせる機会が中々取れないのには危機感を感じる。

根本的な問題は食料自給率が39%しかないということでは？その中でも伝統的な食材は一体どれくらい自給してるのだろうか？オリジナルな文化度もそれと比例していると思うんだけど美術は大量に労働者を囲えるビジネスモデルから遠い。言い換えれば、それだけの者を養えるだけのお金が集まらないから、資本家は喜ばない。また、美術に感心が集まり美術家の懐が潤

○添付資料 5

ったとしても、官僚は喜ばない。テストの点が良かったからといって、そいつらが美術家の集まりの中で権威を持つ事などできないからだ。これが美術活動とお金を疎遠にしている。

デザインは一応芸術系だけど、あれは車や家電といった既存の産業製品と結びついているからこそ美術よりもお金に近づけている。なぜなら既存の産業製品を作る企業は、大量に労働者を囲えるビジネスモデルであったり、官僚の天下り先であったりするからな。

もっと太極的にいうならば、国も資本家も自分が美味しい汁を吸えないような産業はどうでもいいと思ってる。美術は、そのうち歴史の授業に組み込まれるんじゃないかと思う。行政にはどうの昔に幻滅してるけど。工芸（広義の）にはまだまだ幻滅してないよ。

伝統工芸士の資格をもってどんなメリットがあるの？自分と自分の作る物の定義が世間的にはっきりする。売場に並ぶにはあんがい重要なこと

工芸も含めての話だが、芸術や文化的なものを作家がきちっと金に結びつけて行く事はもっと必要かも。この業界をもっと活性化させるために

ほんとにビジネスとして確立されてないし市場も一部に限られてて一般では美術・芸術自体が軽んじられてる風潮がまだまだある

教育のバックアップで一般レベルでの伝統文化の認知度上げる事も重要だが作家がもっと積極的になって市場に作品並べて認知度上げてくところも重要な希ガスる。作家も購買層ももっと気軽に参加できる流通市場が開拓されたり浸透すれば良いのに。興味はあるのだが何処に行ったらいいのかわからない、ギャラリーに入りづらい、高くて手を出しづらいなど

けっこう一般の友人に言われることが気になってる

実際問題、市場として成り立ってない。企業、もっと小規模な店単位でもやりたがらないのは無理ない。個人で月60も入れれば御の字だけど、店だったらどうにもなんない。一昔前ならネットに夢もみれたけどさ。なんでだろうね？欲しい人間はそれなりにいて、売りたい人間は確実にいるのになぜか商売になると確実に儲からないって。

異業種間の垣根を取り払う努力も工芸家自身がしないとイケない。それに他地域との交流ももっとあっていいと思う。もちろん郷土愛とアイデンティティーをしっかりと持っていることが前提。既存の市場に並べても買ってくれるのは年寄りばかりだろうし。先はもう見えている。

海外の市場も視野にいれて是非ともがんばってもらいたいものでR

日本では単なる工芸品であっても外に持ち出せば芸術作品として高いプレミアをつけてくれる可能性がある。そこが狙い目だろなあ。工芸の人には発展の余地があると思う。

プレミアがつくというのはそのまま持って行くという発想でしょ？

そこには甘えがあると思うし何も新しいものは生まれてこない

陶芸関係で特にそういう人が多いように思う。備前なんて結構受けたりする

○添付資料 5

工芸家が潤い、工芸をやる人が増えれば工芸品そのものが発達し、その工芸品が多く出回り広く認知されて初めて文化が継承される。高い評価が得られるなら、そのまま持っていてもぜんぜんOKよ。あ〜とを叫ぶのは勝手だけど、ろくな担い手も作らず簡単に形が失われるような作品で満足してちゃだめだ。

- ・若い人が、ブームにする。
- ・日本テイストのデザイナーが海外で賞を取るはいいとこついで。日本は戦後職人技術で作った製品に特許を申請して儲けてきたが、ここ数年で職人の後継者不足で悩んでいる。当たり前だよ、補助金出さないもの。そんなこんなで伝統工芸も肝心の日本人の職人技も自民党と一緒に滅ぶ運命に。

伝統工芸は本当は庶民が支える物今の無教育アホ市民は百均で何でも買って満足している政府がいくら補助金を出しても生き残れるわけがない。そして微々たる補助金を貰えるのは立派な職人だけで結局見習い職人は育たない

今年三十、うまく弟子入りして、順調に行ったとしても、モノになる頃は五十、六十人件費が高い現在は庶民文化としては無理。新しい旦那衆がトレンドとして金を使う。

とある伝統工芸師見習いのコメント「一番大切なものは家族です」悪いが思わず笑った結局売れなきゃ継承もへったくれも無い。時代の移り変わりとともにニーズも変わる

古くからの技術は継承しなきゃならんがデザインまで古臭いままじゃ売れない

今のお年寄りがいなくなったら懐古ブームでも来ない限り古い意匠じゃ生き残れない

古い表現しか評価されないのであれば若手なんか育たない。技術を継承しつつ表現は好きなようにやればよい（約束事はなるべく無視しない方向で）技や伝統があるならその個性をもっと自信を持ってPRすればいい。ないならあきらめるしかない。

へたにモノで個性を出そうとすると失敗する。そうしたたぐいの個性なるものはともすればデザイナーの個性だったりしがち。そんな一夜漬けの個性ではなくて、昔からある固有のスタイルをリファインし続けていけるだけの美意識の高さをアピールできれば問題ない。

技術はそのまま発想は新しくって事がいいのかな。物は変えずに社会的な位置やビジネスの方向性を変えるとか。難しいけど。

マジレス：

前に美術業界にいて、伝統工芸やろうと電話してみたけど

伝統工芸士の方々は「時間無駄にするからやめなさい」って意見が多かった。

マジに生活できないらしい。何人かしかいない商売している人でも。

年金に保険はらって食費や賃貸・・・生活できないよ。自分で商売を広めなきゃ・・・でも、誰も伝統工芸なくても生活できるしね。特権なきゃ無理。

○添付資料 5

南部鉄器カッコイイっすね。職人さんが作る南部鉄器って東北出身の某海外高級スポーツカーのデザイナーで南部鉄器の現代版作ったとか言うのとは、格が違うって感じ。

こう言うのが残って欲しいなあ。でもこのスレ見るとダメっぽいw

昔みたいに集落ごとがコミュニティを形成してた時代は農業とかで自分の食いもんは確保して集落にとっての外貨獲得のためにやってたものもある。

その手段が生糸や鋳物だったとこはいまや限界集落。専門のものを多く作ってその分も価格に転嫁してもなおかつ買ってもらえることを追求した。今の市場経済と折り合いがわるいかもね
伝統工芸品に関心のある漏れのとって、このスレの言い分である、国が～日本人が～に問題があつてそれで消えかかつてると言うのは、間違いじゃないかも知れないけど、一面的かなとも。
ネットで伝統工芸品の検索をして「経済産業大臣指定伝統工芸品」のホームページを見たけど、「産地組合ホームページ」のURLが無いとか、商品の値段と連絡先が分からないとか、不便すぎやしないか？ 不便すぎ。おまけに流通システムがない。マーケットも確立されていない。だから物作っても並べる棚がない。伝統工芸にとって一番必要なのは力のあるバイヤーだったりする。日本は戦争で町並みをぶっ壊して高度経済成長で一気に過密化して、景観をぶっ壊してしまつたから、「日本の美」に触れる機会もない。こんななかで伝統文化を復興するのは不可能。まずは電線埋めて看板規制して、建築デザイン規制しろ。

東京みたいな歴史から切れた&どこからきたかわけのわからん人間の集まっているところが文化の中心&発信源になっているところに問題がある

ネット流通だと結局安くなっちゃう。国内だけでなく海外にもきちんとした形で製品の良さを伝えていけばいいのにね。とりあえず組合はネットで売るかどうかは別としてまともなウェブサイトつくらないとな。

独マイスター制度崩壊の兆しか？サイトなら結構あちこちの団体が作ってはいるけどな。

これがセンスね一の。「〇〇の歴史」と会員名簿ぐらいしか書いてなくてさ...

やっぱモノ作る頭とモノ売る頭じゃ構造が違うんだよ。営業って軽視されがちだけど、あれはかなり才能が必要なんだな。まして優秀な営業マンとなると、もう一級技能士並でさ。職人が頭つき合わせたってなかなか売るアイデアなんて出てこないもんだ。昔... 江戸の頃って、大名屋敷や豪商の家になんとなく入り込んで茶飲み話しながら、印籠や刀の注文取って「その値段ならだれ某に造りを出して仕上げはだれ某に」っていうプロデューサー的な人間がいたけど、今必要なのはこんな人間のスケール大きい版じゃなからうか。マーケット一から作ることから始めて流通を組み上げ、宣伝戦略まで考えなきゃならない。もう天才の仕事だ...

江戸時代の御用聞きさんのお話、感銘受けました。

私は作り手の立場ですが、例えば自分の仕事に説明をつけると意外と買ってくれる人がいる事に気づきました。そして一度仕事をして納品すると、次から紹介をしてくれたり少しずつ広が

○添付資料 5

って行くことを知りました。それはまるで人を信用してくれた繋がりであるかのようで嬉しいのですが、でもそれは私の小さな工房内の世界のつながりのみであって、いい職人さんがどんどん廃業していく事は何一つ手伝えることはありません。例えば角川書店から独立した幻冬舎の見城徹さんみたいな人がこの伝統工芸界に現れてくれれば・・・という感じでしょうか。

おそらくこの人の「自分は作家の情念を理解している」というのはセールストークか単なる思い込みでしょう。たぶん有能な商売人って、こんな人なのでしょうね。

どういうものを作り、どんなマーケットで売ればヒットするのかを確実に読む能力、自分の頭にあるものを具体的に作家や職人に説明し、相手を乗り気にさせる能力、+異常な行動力があれば、極端な話、プロデューサーは作家の心や思い入れなど、判らなくて良いのだと思います。作る方の人間には、思い入れのせいで見えない事も沢山ありますから。伝統工芸関連の団体への国府県からの補助金はもうやめよう。自分の懐を肥やしたり関係者に手みやげを配ったりして無駄が多い。伝統工芸をネタに利益を享受しているだけの連中ではないのか。伝統工芸を目指す人、生業にしている人たちに直接補助金を出す方がよほど伝統工芸の存続につながる。

>伝統工芸を目指す人、生業にしている人たちに直接補助金を出す方がよほど伝統工芸の存続につながる。 それは嘘だ

>伝統工芸をネタに利益を享受しているだけの連中ではないのか。

補助金じゃないけど、伝統工芸に群がるハイエナは多々。某妖精学校なんて典型例だね～

伝統工芸つーネーミングが寂しげなんだよな

確かにそれはいえてる。伝統マークってのがあるんだが これがまたセンスねー

とにかく行政に何かを求めても無駄。大体この業界にそんな発言力は無いだろうし。前にも書いてあったけど、これからは輸出にかけるしかないだろう。徐々にだろうけど、商品さえしっかり企画すればたとえバリエーションとかその辺だと何とかなるような気がする。

しかし国内でも兆しは少し有るだろうとは思うんだよね。民芸（新しい教科書）という書籍などもあるし、若い人向けの着物の店なんかも見事あるし。V6の三宅だっけ、着物が好きでよく着てるなんて話も聞いたんだけど、ほんとかなあ？

でも>>160のいうところが結局問題な訳で。ユニクロなんかで売ってる浴衣なんかひどい物だし。この問題に作り手がどれだけ向き合えるか。これは買い手にも言える事だけど。百均の何倍もの価格に対してちゃんと納得出来るのかは少し時間はかかるだろうけどね。

しかしあのクールビズってあるじゃん？あれは本当に勿体ないよね。あれこそ着物にすりゃいいのに。麻生さんが芭蕉布なんかの着物で出てくりゃさ、良くね？行政に何かを求めても無駄とは書いたけど求めるんじゃなくて、うまく使えばいい訳で。着物の業界団体みたいなのも真面目に考えてくれないかなあ。まあさ、100均・ユニクロの浴衣になじんだ世代はある意味可哀相。そしてそれが日本をダメにする。時にはそれなりのものを見る必要があると思う。なん

○添付資料 5

一つか全然違う。風格・品格っていうの？長く大事に使える・使いたいもの・美しさって感覚（日本人の持つ独特なの）は忘れたくないな売り込みが出来なきゃ存在しないのと同じだとさどこの国でも、どの世界でも メーカーにコラボ持ちかけたり、教室開いて収益得ながら弟子とヒエラルキを構築し、仕事と時流に合った企画立ててメディアにプレスリリース流したり、展示会に出展したり、少なくとも同一のスタンスで3年精力的に活動を続ければ少しずつ知名度上がって、ちょっとずついろんな所から声が掛かるようになって食えるようになってくる。

商品を宣伝するのではなく、誰が何故作ってるのかを知ってもらう必要がある。居場所は探したり作ったりすれば案外沢山ある。ベーシックインカム制度を導入すれば弟子入りもしやすいし弟子の受け入れもしやすくなると思うんだ。たとえ修行に失敗しても生活をやり直すチャンスはあるし。生活を考えてやりたくてもあきらめた才能のある若者はたくさんいると思う。あきらめないのも才能ってハナシもあるけど、そんなにハードルを高くしなくてもいい。

美の壺のような暮らしなら伝統工芸の良さがしみじみと分るんじゃない？

今の暮らしのスタイルでは買う気になるだろうか？

洋モノデザインばかりが溢れ返っている生活に合わないよね。背景が大事じゃないの？

昔、誰かが民芸運動とかやったときは少しは盛り返したんだろうけど、やっぱ持続させないかんからなあ。でも現代に取り入れやすいの創ってる人もいるんじゃないの？

みんな興味はあるんだよ。入り口が大切なんだよ。

ベーシックインカムあったら職業訓練校に行かずに直接弟子入りするだろ j k

BI導入したら益々弟子入りなんかしない。そこら辺の陶芸教室でかじって後は好き勝手やるだけ。売れなくなっただけいいんだから。4年目で月15万もらってます(内職込み)土日実演とかあるんで休みは月4日ほどベーシックインカムあったら辞めるだろうな

日本の伝統工芸の再興をミッションに掲げている企業、もしくは非営利組織をどなたかご存知ありませんか。

和紙の不正表示？というか紛らわしい表示